

卓話：テーマ『参院選と県内政界』

卓話者：岐阜新聞・編成局報道部長 桐山圭司氏

担当：会報・広報委員長 片桐順一郎



<講演要旨>

今夏の参院選で注目されるのは、民主が単独過半数を確保できるか否か。執行が始まったばかりの本年度予算には、いろいろと紆余曲折があったが、とにかくはじめての政権与党としての政権運営はお手並み拝見といったところ。

しかし、ここに至るまでに鳩山総理、小沢幹事長にまつわる政治資金、脱税問題などの決着が国民的にはうまく図られなかったため、内閣支持率は急落した。おまけに日米関係は普天間基地移設問題で膠着状態が続き、両国の関係は悪化の一途をたどっている。

悪いことばかり列挙しても仕方がないとも思う。新しい年度は始まり、夏には国政選挙がやってくる。県内に目を転じてみると、参院岐阜の藤井氏が、平沼・与謝野氏らと新党をつくるために離党するという“事件”が起きた。夏の選挙には、県議の渡辺氏の当選を目指していた自民県連としては、青天のへきれきだったと思う。新党は、人気のない自民党に嫌気がさした支持者らの受け皿となる、と標榜している。かつて運輸相もつとめた藤井氏は、政界、とりわけ中部財界には、大きなパイプを持ち、支持者も多い。新党に移って何ができるか不透明だが、参院岐阜選挙区での渡辺氏のバックアップはするということなので、自民との折り合いはつくのだろう。

さて、県内の民主も決して安泰ではない。現職の山下氏ともう1人候補者を立てる。自民の参院議員で今回引退を表明した松田氏の秘書、小見山氏が立候補する。これにも関係者は驚きを隠さなかった。松田・渡辺両氏は、98年の参院選で争っている。当時、松田氏は民主系無所属として、県議1期目の渡辺氏は自民公認で出馬。自民は現職笠原氏と渡辺氏のダブル当選を目指したが、民主勢の松田・山下両氏に敗北した。政党を渡り歩いた松田氏の秘書と争うことになる渡辺氏、これには妙な因縁を感じる。

民主が安泰ではないと言うのは、夏までに内閣支持率がどう変化するのか、基地問題がどう展開していくのかなど、鳩山政権のすう勢を左右する諸問題がどう解決されていくのかで、選挙の様相も変わってくるということ。県内の2候補も中央政界の余波を受けることに加え、支持団体の連合岐阜が2候補にまんべんなく力を入れることが難しいことなどから、2勝するのは決して容易なことではない。

さて来春は、統一地方選が行われる。参院選の結果いかんでは、県議、各市議の顔ぶれも大きく違ってくるだろう。とりわけ、県議会は、中央政界とはねじれていて、自民党の牙城となっている。

参院選で民主が勝利すれば、一気に民主色の候補が名乗りを挙げることになる。今後も県内政界の動向に注視していきたい。

(岐阜新聞報道部長 桐山圭司)